

# 素 顔 拝 見

口腔再建外科  
特任助教

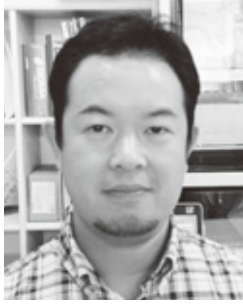
加 藤 祐 介

2014年5月1日付で特任助教を拝命しました口腔再建外科の加藤祐介と申します。自己紹介ということで、出身は新潟県五泉市で、父親は私が所属する口腔再建外科のOBで、母親も新大卒で矯正科のOBというお家柄の3人兄弟の2番目です。優秀？な両親を持ちながら高校では遊び呆け、所属していたテニス部でもこれと言った成績も残さないまま引退しました。それでも父親にあこがれ歯科医師を目指し日本歯科大学に入学しました。大学入学式前の勧誘で騙され、勢いでアメリカンフットボールというこれまで全く縁のないスポーツを始めることとなりました。アメリカンフットボール部では、以前顎顔面外科に所属されていた嵐山貴徳先生（クォータバック：攻撃の司令塔）に駒の様に使われ散々な目に遭いました。卒業後の進路を決めるにあたって父親と相談し口腔再建外科に所属させていただくこととなった6年生の12月のある日、嵐山先生から口腔外科に所属するなら教授に挨拶に来いと言われ、よく分からないまま口腔外科、麻酔科合同の忘年会の二次会に伺い、先輩に言われるがままビールジョッキを抱え教授にご挨拶をさせて頂きました。しかし、その相手が口腔再建外科前教授の齋藤力先生ではなく高木律男先生でありました。結局、齋藤先生には挨拶ができないまま、その日は終了…なんてこともありましたが、それも良い思い出です。

大学6年間のほとんどを執念で五泉から通学し何とか無事卒業することができ、2002年4月に口腔再建外科に入局させていただきました。当初は右も左も分からない全く不慣れな環境でしたが、優秀??な兄貴が同じ医局に所属していたことも手伝って皆さんに良くしてもらい、アウェー感

をあまり感じずに馴染むことができました。入局4年目より当科関連病院の富山県立中央病院に出向させていただきました。そこでの住まいは、救急外来の入口の脇にあるオンボロ官舎でした。臨床に自信がなく赴任当初は救急車のサイレンの音を呼び出しが来るのではないかとドキドキしながら聞いていましたが、そのほとんどが医科の症例で歯科は滅多に呼び出しがかからないことが分かったと、サイレンの音も受け流すことができるようになりました。横林康男先生からご指導いただいた中央病院での経験は口腔外科医としての私の基礎となっています。もう一つ、富山では毎週金曜日の午後、衛生士学校に授業に行くという業務がありました。女子高生の様な制服を着た数十人の女子に対し、口腔衛生という畑違いな内容の授業を行う、これが何とも辛く毎週金曜日の午後は憂鬱でした。とは言え、私の嫁はその学校の教え子であります。嫁候補を捕まえ2年後の2007年4月に大学に戻りましたが、縁あって1年後の2008年4月からは南魚沼市立ゆきぐに大和病院に出向させていただきました。同病院では以前にご指導いただいた当科出身の加納浩之先生という素晴らしい大先輩に再び指導をしていただきました。ゆきぐに大和病院の2年間は加納先生の日々の診療に対する姿勢や素晴らしい手術手技を常に目にすることができ、私にとって非常にありがたい経験をすることができました。

2010年4月に大学に戻り現在に至るわけですが、2014年より医療連携口腔管理チームに参加させていただき、医科歯科の連携に協力させていただいております。今後も諸先生方のご指導のもと、口腔再建外科と新潟大学歯学部への発展に微力ながら貢献できるよう努力していきたいと思っておりますので、何卒宜しくお願いいたします。



歯科薬理学分野  
助教

柿原 嘉人

はじめまして。歯科薬理学分野・助教の柿原嘉人と申します。早いもので、新潟に参りまして、もう1年が経とうとしております。出身は、福岡県北九州市で、工場のたくさんある煙突の町で育ちました。これまでに、奈良、大阪と関西までは住んだことがありましたが、日本海側に住むのは、はじめてだったので、新潟に来る前は少し不安もありましたが、今では風光明媚で美酒佳肴な新潟にすっかり魅了されております（初めての冬はちょっと辛かったです…。）。また、新潟は親切な方がとても多く、これまでいろいろな方々に助けて頂きました。引っ越してきて間もなく、ちょっと街を散策するのに自転車があればと思い、自転車店を探しに出かけたのですが、なかなか見つからず困っていたところ、ちょうど通りかかった理髪店から、散髪したてのおじいさんがひとり出て来られました。肌着一枚に短パンと草履、首にタオルを巻いた新潟なのにチャキチャキの江戸っ子系のおじいさんで、足取りも軽く、店の外に止めてあった新品の自転車にひょいと乗って行かれようとしたので、思わず、「すみません、その自転車、どこで買ったんですか？」と聞いてしまいました。おじいさんは、なんの躊躇もなく、「あ、コレ？ドンキ。」と即答してくれました。「ドンキは安いよ～～。なんでもあるよ。」とドンキホーテを薦めて頂いたのですが、駅南のほうにあるらしく、ちょっと遠かったので、「もうちょっと、近いとこでないですかね？」と伺うと、「このへんか～～。このへんはあんまりないんだよな～～。」としばらく考えてくださり、「あっ！イトーヨーカドーにあるわ！」と教えてくれました。そして、「連れて行ってやるよ。」と自転車を押しながら、一緒に歩いてヨーカドーまで連れて行ってくださいました。なんとも粋なおじいさんで、聞けば、その昔、貨物船の船長をされてい

て、福岡の港にも度々訪れ、現地の方にとっても親切にして頂いたということでした。新潟と福岡のなんとも不思議なご縁を感じた瞬間でした。ヨーカドーに到着後、おじいさんは、上階の自転車売り場まで案内してくださり、自転車選びまで手伝ってくれました。折角だったので、おじいさんの自転車と似たタイプのものに決めましたが、それがドンキより安かったので、おじいさんは、「ヨーカドーのが安いな…。」と少し肩を落とされました（ちょっと気の毒でした…。）。その後、自転車の購入手続きをして、おじいさんにお礼がてら喫茶店で珈琲でもと思い振り返ると、そこにもうおじいさんの姿はありませんでした…。かっこよすぎです。それ以来、おじいさんにはお会いできておらず、“探偵！ナイトスクープ”にでも依頼して探してもらおうかとも思いましたが、それもできず、ずっとおじいさんと出逢ったシモ古町の理髪店ヒロに通っているのですが、残念ながらまだお会いできておりません。再会できた暁には、おじいさんと自転車で、古町カフェめぐりをしたいとおもっております。おじいさんのおかげで購入できた自転車で市内を散策してみたいことがあります。新潟はラーメン店さんが多い！ご存知のとおり、福岡は、とんこつラーメンのメッカですので、多いのは当然ですが、新潟は、店舗数も多いし、さらにいろいろな種類のラーメンがあるのにビックリです。みそ、しょうゆ、あごダシとんこつ、背脂チャッチャ系とんこつ、カレーラーメン等々、朝マックならぬ“朝ラーメン”もあるし、新潟人は、どんだけラーメンすいとんどですか？福岡では、“ラーメン＝とんこつ”なので、お店に入ったら、だいたい、チャーシュー麺にするか大盛りにするか、硬麺にするかくらいの選択肢しかありませんが、チョイスの多い新潟のラーメンは、ミスドでどのドーナツを注文するか？くらい迷ってしまいます。まだ数件ほどしか行ってないので、ぼちぼち好みのラーメン店探しをしてみようと思います。麺の話題になってしまったので、さらに“新潟麺事情”を検証すると、新潟においてラーメン店舗数とうどん店舗数は、相反関係にあることがうかがえます。うどん好きには、ちょっと残念です。福岡は、とんこつラー

メンも然ることながら、実はうどん店も非常に多いのです。とんこつラーメンとは異なり、うどんは他県同様、ちゃんと、月見うどんも、ごぼ天うどんも、きつねうどんもありますから、無問題（モウマントイ）！ただ、うどんを注文した後、店のおばちゃんに「これ一皿もらうけね。」と言ってカウンター隣の隅に置いてある、ガラスのショーケースから自分で“かしわおにぎり”を取り出して食べるのは、福岡の独特な習慣かもしれません。かしわおにぎりには、刻んだ鶏肉と、にんじん、ごぼう、こんにゃくなどがバランス良く入っており、いなりもいいですが、コレがうどんと goes well !! なのです。みなさま、福岡へお寄りの際は、是非お試しを。というわけでB級グルメ好きの柿原でした。今後ともどうぞよろしくおねがい致します。



地域保健医療推進部  
特任助教

小 玉 直 樹

2015年5月1日付で地域保健医療推進部の特任助教を拝命致しました小玉直樹です。地域保健医療推進部といわれても、何をしているところなのかピンとこない方も多いと思いますので、簡単にご紹介申し上げます。新潟大学医歯学病院の地域保健医療推進部では退院や転院に関する連絡調整などの地域医療連携に加えて、疾病や治療に関連する医療福祉相談なども行っている部署で、おもに医療ソーシャルワーカー（MSW）の方々が社会福祉の観点で患者さんをサポートしています。急性期病院であるため、どうしても退院支援や地域連携といったことが目立ってきますが、患者さんの社会的、経済的、心理的問題まで踏み込み、社会復帰を助ける業務を幅広く行っています。口腔外科では、緩和ケア施設などへの転院調整や、医療費の支払い相談で依頼されたことのある先生方も多いことと思います。院内の医療連携もまた

その業務の1つで、入院患者さんの歯科治療や口腔管理の支援も含まれます。現状では個別に歯科治療依頼を受けていますが、これに加えて、必要とする患者さんが、広い意味での口腔ケアをきちんと受けられるよう、スキームを作成する事がここでの私の当面の業務となっています。また、今回の就任にあたってもう1つ、医療情報部での仕事をいただいております、2016年に予定している次期歯科カルテシステム稼働の準備に携わらせていただいております。また、申し遅れましたが、所属している医局は顎顔面口腔外科で、臨床や研究、教育活動にもこれまで通り参加させていただきます。

私の生まれは福島県福島市で、学童期に郡山市へ移り住みました。福島県には鶴ヶ城（会津若松）や二本松城、白川城、白石城、福島城など数々の名城とその城下町があり、それらが都市発展の礎となっています。一方で郡山市は、今でこそ県の中核都市ですが、もともとは、あまり人の住まぬ荒涼とした土地でした。余談ですが、「郡山城」というと筒井順慶が築城した大和郡山城を思い浮かべる方が多いと思います。しかし、いくつかの古典文学に安積野の「郡山城」が登場し、政宗記には天正16年（1588年）の「郡山合戦」について触れており、反伊達の佐竹や芦名の軍勢が、伊達方についていた郡山太郎右衛門尉頼祐の郡山城に進撃するくだりが書かれていたりします。もっとも、その「郡山城」の史跡は残念ながら残っていません。話を戻しますと、郡山市が都市として栄える基盤となったのは、明治時代に行われた疎水開発でした。当時は不可能とされていた峠越えをして猪苗代湖から疎水を流し、安積原野を開拓して、現在では農業だけでなく経済や工業、流通、交通の要衝として発展を遂げています。私がここで卒業した安積高校は今でも、文武両道や質実剛健とともに「開拓者精神」を大切にしています。2011年3月の東日本大震災と原子力発電所事故の傷痕は深く、4年経った今でも様々な形で影響を残していますが、今でも残る開拓者精神で克服・復興していくことと願っています。

私はその後、1996年に日本歯科大学への入学を機に単身で新潟へ移り住みました。他の方も申込

れますように、当初は日本海側の独特の気候に悩まされましたが、気が付けば新潟での生活も今年で20年目に入り、今ではこの適度な湿気が身体に心地よい感じすらします。日本歯科大学を卒業後は、2002年に新潟大学歯学部の顎顔面口腔外科へ入局させていただき、高木律男教授のご指導のもと臨床研修と研究活動を行い、2006年に学位をいただいております。研究の詳細については割愛いたしますが、京都大学再生医科学研究所の生体材料学分野で歯槽骨再生モデルを作成し、その後、新潟へ持ち帰って再生現象の解析をさせていただきました。大学院在学中は学内外の多くの方々の研究に触れることができ、振り返ってみると、とても密度の濃い4年間でした。学位取得後は群馬

県のぬまた歯科口腔外科医院、新潟県村上市の肴町病院、秋田県の由利組合総合病院へ出向させていただき、2009年から再度、顎顔面口腔外科で診療をさせていただいております。大学院でご指導をいただいた永田先生をはじめ、多くの先生方や、このような機会を下さり、誰にでも惜しみなく教育、ご指導を下さる高木教授や顎顔面口腔外科の先生方には深く感謝しております。歯学部、病院ともにとっても大きな組織で、個人としての力は限られてはいますが、同じ目的や高い目標をもった集団の一員として、これまでの経験を生かして微力ながら尽くしてまいりますので、ご指導、ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

